

# 子供と自然をつなぐ地域プラットフォーム形成支援事業 (自然体験活動)

体験活動地域プラットフォーム形成支援事業

愛媛県

## I 東予地域(新居浜市 大生院中学校区)

### 【事業のポイント】

- 地域の自然環境を活かした体験活動の実施
- 地域で活動する青少年教育団体との連携による体験活動の実施
- 地域の中高校生ボランティアや大人との交流を重視した体験活動の実施



間伐・枝打ち体験

## 1. 企画

### (1) 事業実施の背景

子どもたちの自然体験活動を学校における環境教育と関連付けることによって、子どもたちは地域の自然をより深く理解し、地域に愛着をもつことができるようになると考えられる。そこで「森林わくわく体験推進事業」(義務教育課)と連携し、「森はともだち」推進事業指定校である新居浜市立大生院中学校を含む大生院地区に地域プラットフォームを形成し、大生院中学校の事業内容と関連付けるとともに、多様な地域人材等を活かした体験活動を実施し、地域全体で子どもたちをよりよく育成しようとする体制作りを努めることとした。

### (2) わらい

地域を基礎として、公民館、学校、行政、青少年教育団体等をネットワーク化することにより、様々な体験活動を円滑に実施できる「地域プラットフォーム」を形成し、地域での持続可能な体験活動推進のしくみをつくることと、地域の自然をより深く理解し、地域に愛着をもつ子どもを育てる。

## 2. 実施概要

### (1) 実施主体

大生院わくわく体験実行委員会  
(大生院公民館職員、夢遊友うずい代表、うずい里山保全の会代表、大生院愛護班連絡協議会代表、でこぼこクラブ(大生院放課後子ども教室)関係者、新居浜市立大生院小学校長、新居浜市立大生院中学校長、愛媛県立新居浜南高等学校長、新居浜市教育委員会社会教育課担当者、東予教育事務所社会教育課担当者)

### (2) 開催実績

月 日	内 容
平成27年5月26日	事前打合せ会(実行委員会立上げ準備委員会)
平成27年6月15日	事前打合せ
平成27年7月1日	事前打合せ
平成27年7月14日	第1回実行委員会
平成27年7月24日	事前打合せ
平成27年8月6日	第1回大生院わくわく体験運営委員会
平成27年8月22日	第1回大生院わくわく体験－渦井川を楽しもう－
平成27年9月7日	事前打合せ
平成27年9月29日	第2回大生院わくわく体験運営委員会
平成27年10月3日	第2回大生院わくわく体験－大生院の里山づくりを楽しもう－
平成27年12月3日	事前打合せ
平成27年12月13日	第3回大生院わくわく体験－ウォークラリーin大生院－
平成28年1月26日	第2回実行委員会

### (3) 事例の収集と発信


- 体験活動ごとに募集チラシを配布し参加者を募るとともに、活動終了後は情報紙を作成し、大生院地区全家庭、小・中学校、ボランティア高校生、実行委員に配布した。
- 地域のCATVによる取材、放映を通して、地域住民に活動の様子を知らせた。
- 東予教育事務所社会教育課のホームページに活動の様子を掲載した。

### (4) 意見交換の場の設定








実行委員会で、体験活動の企画・検討・反省を行った。

(5) 新たな青少年体験活動の推進方策の検討と試行

第1回大生院わくわく体験-渦井川を楽しもう-

1 日時	平成27年8月22日(土)9:00~15:15
2 場所	新居浜市稲荷山公園
3 参加者	総数23名 幼稚園児、小学生、保護者・地域住民
4 スタッフ	総数29名 夢遊友うずい名、竹林をよくする会、公民館関係者、学校関係者、県教育委員会、教育事務所
5 ボランティア	総数12名 新居浜南高等学校、新居浜西高等学校、大生院中学校
6 活動状況	<p>1 設営・準備(8:00~ 8:30)</p> <p>2 受付(8:30~ 9:00)</p> <p>3 開会行事(9:00~ 9:15)</p> <p>4 体験活動(9:15~12:00)</p> <p>(1) 食事づくり体験 ○ 竹ご飯づくりのための竹筒の製作・かまどづくり・火おこしの体験を行った。</p>  <p>(2) 食器づくり体験 ○ 割り箸、茶碗、コップ魚の串焼きのための串を竹で製作した。</p>  <p>(3) 竹細工 ○ 竹林をよくする会の指導の下、竹笛や水鉄砲、楽器等の製作を行った。</p>  <p>(4) 魚のつかみ取り・塩焼き、釣り体験 ○ 人工的に放流したニジマスを、素手でつかみ取りをしたり、釣り道具を使ったりして釣り上げ、自分たちで作った串に刺して、焼く体験をした。</p>  <p>5 食事(12:00~13:30)</p> <p>○ 自分たちで作った竹ご飯や焼き魚を味わった。</p>  <p>6 講話・調査(13:30~15:00)</p> <p>○ 総合科学博物館学芸員から、「川の環境」や「水辺の生物」について講話を聞き、実際に水生昆虫を採集し、川の環境について考えた。</p>  <p>7 閉会行事(15:05~15:15)</p>

第2回大生院わくわく体験-大生院の里山づくりを楽しもう-

1 日時	平成27年10月3日(土)9:00~12:30
2 場所	新居浜市地球っ子ひろば(大生院喜来)
3 参加者	総数26名 小学生、保護者・地域住民
4 スタッフ	総数24名 うずい里山保全の会、プロジェクト地球っ子クラブ、公民館関係者、学校関係者、教育事務所、地域関係者
5 ボランティア	総数16名 新居浜南高等学校、大生院中学校
6 活動状況	<p>1 設営・準備(8:00~ 8:30)</p> <p>2 受付(8:30~ 9:00)</p> <p>3 開会行事(9:00~ 9:15)</p> <p>4 講話・アイスブレイク(9:15~9:30)</p> <p>○ 山の話(木の大切さ等)を聞いた。</p>  <p>○ ドングリじゃんけんで心と身体をほぐし、人間関係づくりを行った。</p> 
	<p>5 体験活動(9:30~12:00)</p> <p>(1) 自然散策(9:30~10:30)</p> <p>○ 参加者全員で衣笠山の散策をし、衣笠塚の由来について話を聞いた。</p> 
	<p>(2) 皮剥ぎ・間伐・枝打ち・薪割体験(10:30~12:15)</p> <p>○ チェーンソーで切り口を入れたヒノキの皮を剥いだ。</p> 
	<p>○ ロープを掛けたヒノキをグループで引っ張り、倒した。</p> 
	<p>○ 鋸を使い、枝打ち・皮剥ぎをした。</p> 
	<p>○ 自分たちで倒した木を広場まで運び、機械を使って薪割を行った。</p> 
	6 閉会行事(12:15~12:30)

### 第3回大生院わくわく体験-ウォークラリーin大生院-

1 日時	平成27年12月13日(日)9:00~14:00
2 場所	新居浜市立大生院小学校運動場及びウォークラリーコース
3 参加者	総数129名 幼児、小学生、保護者・地域住民他
4 スタッフ	総数61名 愛護班連絡協議会会員、公民館関係者、学校関係者、地域関係者、教育事務所
5 ボランティア	総数10名 大生院中学校
6 活動状況	<p>1 設営・準備(8:00~ 8:30)</p> <p>2 受付(8:30~ 8:50)</p> <p>3 開会行事(9:00~ 9:15)</p> <p>4 ウォークラリー及び各チェックポイントでのミニゲーム(9:15~12:40)</p> <p>(1) ウィークラリー</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ グループで協力しながら地図を見て進み、ゴールを目指した。</li> <li>○ 山の話(木の大切さ等)を聞いた。</li> </ul> <p>(2) 各チェックポイントでのミニゲーム</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 紙飛行機飛ばしやペットボトルカップ神経衰弱、ペットボトルボーリング等のミニゲームを行い、得点を競った。</li> </ul> <p>5 食事(12:40~13:40)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 参加料として提出した野菜を使った鍋料理を食べた。</li> </ul> <p>6 閉会行事(ウォークラリー終了後)(13:40~14:00)</p>



### 3. 成果と課題

#### (1) 事業成果

○プラットフォームの拠点を地域活動の拠点である公民館に置くことにより、地域の青少年団体との連携がスムーズに取れるようになり、体験活動を継続して行うための体制づくりができた。

○計3回の多様な体験活動を通じて、参加者は地域の自然に関する理解や地域への愛着を深めることができた。

○専門家の指導を得ることにより、参加者にとってはめったにできない貴重な体験を、安全面を確保しながら実施することができた。

○異学年の児童や生徒、地域の方との交流ができ、地域のつながりを構築できた。

○中高生が、ボランティアとして参加することで、地域の青少年リーダーとしての自覚をもたせることができた。

#### (2) 事業運営上の課題

○地域の青少年団体は、これまで個別に活動していたため、活動に対する思いに差があり、企画内容や役割分担を調整することに苦労した。

○社会体育との関係で、参加の難しい時期があるので、学校や関係団体とも連絡・調整を図りながら、募集を行う必要がある。

○暑い時期の開催は、健康面で高齢の役員への負担が大きかった。

○「子どもゆめ基金」の活用等、今後の予算確保を図る必要がある。

#### (3) 事業成果の普及啓発の課題

○本事業の成果の啓発や事業を拡充するため、市町への働き掛けが必要である。

○参加者が体験したことや学んだことを、他の人に伝える場の設定が必要である。

○今後とも活動を継続するため、本事業を進めるための運営方法や組織の在り方を確実に引き継ぐ必要がある。

## II 南予地域(伊方町 伊方中学校区)

### 【事業のポイント】

- 森林資源の豊富な他地域での体験活動の実施
- 地域に多く生育する竹を利用した体験活動の実施
- 地域の中学生ボランティアや大人との交流を重視した体験活動の実施



竹飯盒炊さん

### 1. 企画

#### (1) 事業実施の背景

子どもたちの自然体験活動を学校における環境教育と関連付けることによって、子どもたちは地域の自然をより深く理解し、地域に愛着をもつことができるようになると考えられる。そこで「森林わくわく体験推進事業」(義務教育課)と連携し、「森はともだち」推進事業指定校である伊方町立伊方小学校を含む伊方中学校区に地域プラットフォームを形成し、伊方小学校の事業内容と関連付けるとともに、多様な地域人材等を活かした体験活動を実施し、地域全体で子どもたちをよりよく育成しようとする体制づくりに努めることとした。

#### (2) わらい

地域を基礎として、公民館、学校、行政、諸団体等をネットワーク化することにより、様々な自然体験活動を円滑に実施できる「地域プラットフォーム」を形成し、地域での持続可能な体験活動推進の仕組みをつくることと、地域の自然をより深く理解し、地域に愛着をもつ子どもを育てる。

### 2. 実施概要

#### (1) 実施主体

体験活動地域プラットフォーム形成支援事業実行委員会  
(伊方小・中学校関係職員、伊方小学校PTA会長、川永田一区长、伊方町中央公民館長・主事、伊方町老人クラブ連合会伊方支部長、伊方町教育委員会生涯学習室主査、伊方町役場農林水産振興室長、町見郷土館学芸員、南予教育事務所社会教育課担当者)

#### (2) 開催実績

月 日	内 容
平成27年5月25日	第1回実行委員会
平成27年6月12日	第2回実行委員会
平成27年8月11日	第3回実行委員会
平成27年8月18日	第1回体験活動(西予市野村町大野ヶ原)
平成27年10月6日	第4回実行委員会
平成27年11月9日	第5回実行委員会
平成27年11月10日	第2回体験活動第1回準備会
平成27年11月13日	第2回体験活動第2回準備会
平成27年11月15日	第2回体験活動(伊方町 室鼻公園)
平成27年12月4日	第6回実行委員会

#### (3) 事例の収集と発信

- 体験活動ごとに募集チラシを配布し参加者を募るとともに、活動後は通信を参加者、関係者に配布した。
- 地域のCATVによる取材、放映を通して、地域住民に活動の様子を知らせた。
- 南予教育事務所社会教育課のホームページに活動の様子を掲載した。

#### (4) 意見交換の場の設定

実行委員会で、体験活動の企画・検討・反省を行った。

第1回体験活動「自然てんこ森 ～第1弾 大野ヶ原自然探検～」

- (1)日時 平成27年8月18日(火) 7:20～18:00
- (2)場所 西予市野村町大野ヶ原
- (3)参加者 伊方小学校・九町小学校の5・6年生児童(31人)スタッフ(12人)
- (4)内容 ブナ原生林散策・自然に親しむ活動  
(四国カルスト散策・昆虫等観察)
- (5)日程

7:00	7:20	7:30	10:20	12:10	13:00	15:00	17:50	18:00
受付	出発式	移動 (バス)	ブナ原生林 散策	昼 食	自然に親しむ 活動	移動 (バス)	解散式	

(6) 活動の様子



ブナ原生林散策

伊方町から西予市大野ヶ原までは、バスで約3時間かかるため、バスの中で講師や学芸員から史跡や樹木についての説明を行った。  
ブナ原生林では、講師の話聞きながら散策した。ブナは、森の母と呼ばれるほど保水力が強く、土壌を豊かにし、集落の人々や家畜の命を支えていることが分かり、児童は興味を持って観察した。また、昆虫や草花、動物の鳴き声などにも注意を払いながら散策し、全身で森林の雰囲気味わうことができた。



四国カルスト散策

源氏ヶ駄場で弁当を食べた後、日本三大カルストの一つである四国カルストへ移動した。標高約1400m、眼下には標高1000m以上の尾根が連なり、太平洋まで見渡せる大パノラマが広がるはずだったが、深い霧に包まれ、残念ながら景色が見られなかった。子どもたちは、山の天気の変わりやすさに驚きながらも、遊歩道を歩き、草花を観察した。



学習館見学

学習館では、係の方の説明を聞きながら、館内の展示物を興味深く見て回った。独特の地形をもつ四国カルスト形成の仕組みが分かる模型や、そこに咲く高山植物・花木や生き物などの写真や標本が展示され、自分の地域では見ることのできない自然環境についての学習を深めた。

**【児童の感想】**

○「大野ヶ原」という名前がどうやってついたかなどを知ることができたのでよかったです。それに、森の木の名前や鳴いている生き物のことも知り、この機会を通じて森のことがたくさん分かったのがうれしかったので、また行ってみたいと思いました。

○自然探検で、自然の大切さが分かりました。自然は、私たちの生活に欠かせないものです。だから、大切にしたいです。

**第2回体験活動「自然てんこ森 ～第2弾 竹で作ろう、遊ぼう、食べよう～」**

(1)日時 平成27年11月15日(日)

(2)場所 伊方町 室鼻公園

(3)参加者 伊方小学校・九町小学校・水ヶ浦小学校の3～6年児童(29人)

伊方中学校ボランティア生徒(18人) 老人クラブ(7人) スタッフ(16人)

(4)内容 竹切り・竹細工・竹飯炊きさん・豚汁づくり

	8:30	8:50	9:00		12:00	13:20	13:30
3・4年生	受付	開会行事	移動	竹細工 (竹トンボ・竹馬・竹鉄砲等)	昼食 片づけ	閉会行事	
5・6年生			竹きり	移動			竹飯炊きさん準備 (食器・かまど作り等)



竹切り



竹細工(竹とんぼ・竹馬)



豚汁づくり

開会行事の後、高学年児童と中学生は、地域にある八幡神社の竹を切ることからスタートした。

中学年児童は、室鼻公園に移動し、講師の指導のもとで竹細工を開始した。竹細工では、中学生や老人クラブの方が小学生の作業をサポートしていただいた。のこぎりや小刀等の道具に慣れていないため、初めは四苦八苦していたが、慣れると手際よく作業を進める児童も出てきた。

調理場では、栄養士の指導のもと、中学生が豚汁づくりを手際よく進めた。

また、竹飯盒をつくるグループも中学生を中心に協力して作業し、予定どおりの数を作ることができた。子どもたちは、作業をしながら中学生や大人との交流も楽しむこと



竹飯炊きさん



ご飯と豚汁



グループでの昼

「竹飯盒が燃えてしまうのでは?」「焦げているのでは?」という不安を抱きながらも、グループで火加減を調整しながらご飯を炊いた。50分ほどでご飯が炊け、大人も子どもも一緒にグループで昼食をとった。ご飯を盛る器は、竹飯盒を作った残りの竹を利用した。特に豚汁が大人気で、一滴も残らないほどだった。異年齢の者との交流もでき、終始和やかな雰囲気であった。

#### 【児童・生徒の感想】

(小学生)

○自然てんこ森に行くのは初めてで、「どうしようか」と思っていたけど、行ってみると、すぐに友達ができ、竹馬などを簡単に作ることができてよかったです。

○竹で炊いたご飯は、ちょっと焦げていたけれど、とてもおいしくて、おじさんやいろいろな人もやさしく対応してくれてとても楽しかったです。

○いろいろな小学校の友達や中学生、大人の人たちと自然を使ったいろいろな活動ができてうれしかったです。また、来年も参加して、いろいろな人とふれ合いながら活動できたらいいなと思います。

(中学生)

○この活動を振り返って、竹でたくさんの物ができることのおもしろさを学び、またボランティアとしての活動をしっかりと、小学生とたくさん交流ができたのがよかったです。

### 3. 成果と課題

#### (1) 事業成果

○実行委員会が組織されたことで、地域の関係者との連携がスムーズに取れるようになり、体験活動を行うための体制が整った。

○参加児童がブナや竹をはじめ、植物や昆虫に興味をもち、大切にしていこうとする気持ちが高めることができた。

○他校の児童や地域の方との交流ができ、他の体験活動にも参加したいという児童が増えた。

○自尊心が低い傾向にある中学生が、ボランティアとして参加し、人の役に立てたという経験ができて自信につながった。

○小・中学生のことを地域の方に見てもらい良い機会であり、このつながりを今後の青少年の健全育成に役立てることができる。

#### (2) 事業運営上の課題

○野外でたくさんの材料や道具を使用するため、実行委員をはじめとするスタッフの役割分担を明確にする必要がある。

○実行委員のメンバーをより広く募り、体験活動の企画において様々な立場からの意見やアイデアを集めるとよかった。

○今年度しか予算がつかないため、今後は公民館を中心に実行委員会を組織し、公民館事業の一つとして事業を継続する方向で検討している。

#### (3) 事業成果の普及啓発の課題

○情報紙を配布したが、事業成果の普及啓発をさらに図るためにも、子どもたちの体験や学びを地域の情報誌等へ積極的に掲載するとよい。

○本事業を継続実施するために、組織の在り方や事業の運営方法を確実に引き継ぐ必要がある。